

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立岩槻高等学校)

目指す学校像	自主・自律の態度、確かな学力、国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の自己実現を支援する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	1 学力向上・国際感覚の育成 2 進路指導の充実 3 生徒指導の充実と人権教育の推進 4 保護者・地域との連携
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p><b>【現状】</b> 生徒は落ち着いた学習する雰囲気は定着しており、各学年とも協調して、朝学習や授業・学校行事に取り組ませている。国際交流部・国際文化科が中心となり国際理解教育を進めている。</p> <p><b>【課題】</b> 生徒は受動的な取り組み姿勢が強く、家庭学習時間が短い。一人一人の自己実現を支援するためにも学習の目的・目標を明確にし、グローバル社会に対応できる能力を身につけた生徒を育成する。</p>	・教員の授業力向上を図り、主体的・対話的で学びにつながる学習環境の整備。グローバルな視点から諸課題の解決ができる生徒を育成する指導。	①各学年の朝学習指導を継続する。 ②学習意欲の向上(面談・学習リサーチ結果等の活用)を図り成績を向上させる(定期考査・小テスト・模試・検定等)。 ③授業見学や公開・第三者評価を活用し授業力を向上させる。 ④ICT機器を活用した教育の取組、及び感染症に対応した特色ある国際理解教育に関する事業を実施する。	①成績優良者(各学年20%以上)・成績不振者(各学年なし)。学びの基礎診断(スタサポ、GTEC)、模試等の成績。(通年) ②教員の授業評価と生徒の学習姿勢(アンケート・見学シート等活用)(通年) ③学校HPやリーフレットの有効活用。効果的な行事計画の立案。(通年) ④ICT機器の活用状況と教員の操作技術の獲得の状況。			
2	<p><b>【現状】</b> 自己実現に向けたキャリア教育の視線に立った指導を実践している。しかし自分の将来を見据えた進路選択や地道な学習活動が不十分である。</p> <p><b>【課題】</b> 将来を見据えた進路選択を行い、進路意識を向上させ、興味・関心・適性に応じた進路実現を目指す生徒を育成する。</p>	・3年間を見通した計画に基づいた指導の実施。進路実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する指導。	①進路行事(ガイダンス・講演会等)を通じ進路意識を向上させる。 ②キャリアパスポートや学習データを活用する。 ③授業以外(進学補講・模試・各種検定・家庭学習等)の積極的な学習参加を指導する。 ④最新情報(説明会・研修会・クラウドサービス等)を活用し指導(面談等)を充実させる。	①進路行事の計画的実施(通年)。診断スコア・模試結果等。進路決定率(9割超)。 ②学びの基礎診断等の学習データの活用状況。 ③進学講習・模擬試験・各種検定等(実施回数・参加者数)。家庭学習時間。(保護者アンケート分析) ④研修会の回数や面談シートの活用状況。			
3	<p><b>【現状】</b> 全学年間で統一した指導方針を進め、生徒の基本的な生活習慣が確立している。交通マナー等で外部から指摘を受けている。</p> <p><b>【課題】</b> 交通マナーの向上を図る。また悩みを抱える生徒への対応を充実させ、SNSに関するマナーを高めるなど、人権尊重の精神を涵養する。</p>	・社会の中の一員として挨拶、時間厳守、交通マナー等に責任ある意識を持たせ、多文化共生社会における実践力を育成する指導。	①職員が共通意識を持ち、共通指導を実施し、コロナ禍での生活様式(衛生管理、黙食等)についての意識を定着させる。 ②計画的指導(登下校・交通安全)を通じ、自転車の登下校のマナーを向上させ、交通事故を防止する。 ③悩みを抱える生徒への教育相談・生徒指導をきめ細かく実施する。	①計画的・継続的指導の実施(各HR、学年・全校集会、全体整容指導等)(通年)。 ②登下校マナーに関する苦情・重大な交通事故の撲滅。(通年)。交通安全指導の計画的実施(各学期)。 ③不登校・転退学者数の減少(前年度よりもさらに少なく)特別生徒指導案件の減少(特にSNSに関するトラブル)			
4	<p><b>【現状】</b> コロナ禍で各種の交流事業が制限される中でも、少人数での地域行事等への参加など、可能な範囲で地域交流を行っている。</p> <p><b>【課題】</b> 学校HPの中でも特に部活動や学年についての情報発信を進める。感染症や地域の状況を踏まえ、積極的に地域交流を進める。</p>	・情報発信、地域交流を通じて生徒、保護者、地域住民との相互理解を深める。 ・外部資源を活用して生徒の学びを豊かにする。	①交流が制限される中、学校HPを中心に、効果的な情報発信を行う。 ②高大連携や、PTA組織、地域との連携で、教育活動の充実を図る。	①学校HPの情報発信の更新頻度、新たな情報提供手段の開発。(通年) ②地域・保護者等と連携した教育活動の実施回数。(通年)			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	